アートを通じて表現したのは、感性豊かな「四季のレジデンス」です。

アートデザインという観点から、本プロジェクトに参加している、ディレクターの等（ひとし）氏に話を聞いた。

季節の移ろいを楽しむ、「衣替え」できる四季のギャラリー。

まず最初に「センシビリティ・レジデンス」という、このプロジェクトのコンセプトがありました。そして、知的で文化・教育に力を注いでいる浦和という街の特性。これらを、どうアートに落とし込めるか、ここでどんなアートのある暮らしを楽しんでいただけるかを提案していく。そのうえで、テーマに沿った作品を選択し、あるいはオリジナル作品の製作を作家に依頼する。全体のアートプランニングやプロデュースをするのが、私の役割になります。今回、アートのテーマとして浮かんだのが「四季のレジデンス」。日々の暮らしで、四季の移ろいだとか、時の変化を楽しむ、そういう繊細で豊かな感性こそが、日本人のセンシビリティではないか。このプロジェクトには豊かな植栽がもちろんありますが、アートとしても四季を感じていただきたいなと考えました。具体的に言うと、ひとつ目は「四季のギャラリー」。春夏秋冬、それぞれをイメージするアートを展示するのですが、季節に合わせて作品を付け替える、いわば「衣替え」ができるギャラリーにしました。衣替えって、季節を感じて暮らす日本の美意識ですけど、毎日眺めているアートを通して、四季の移ろいを感じる。ギャラリーを見ながら「もう秋だな」などと感じていただければ。とても豊かな暮らしのスタイルになると思います。



アートのコンセプトを語る等氏

星座や月という、宙（そら）の四季もモチーフに。

「四季のギャラリー」はグランドエントランス側にありますが、アートエントランス側にも作品を設置します。モチーフは、「宙（そら）の四季」、宇宙のそらです。四季というのは星座とか宇宙の法則の中から出てくるひとつの事象なわけですが、春夏秋冬それぞれの季節のシンボリックな星座を作品にしたらどうかと考えました。夏ははくちょう座、冬はオリオン座といったように。アートエントランスにちょうど4本の柱があるので、そこに四季の星座を飾って、夜帰宅した方を、照明に浮かび上がる星空のアートがお迎えするというイメージです。夜空の四季を普段はあまり意識しないと思いますが、ここに住めば毎日眺められるわけです。そして、宙（そら）の四季で、星ときたら月もあります。浦和には〈こまうさぎ〉で有名な「調（つき）神社」がありますので、やはり土地の由来からも月というモチーフは欠かせないですね。ひとつの作品の中に月の満ち欠けをうまく取り込んだ作品の製作を今、作家に依頼しています。地元由来ということでは、桜区（旧浦和市）の田島ケ原にサクラソウの自生地があって、国の特別天然記念物に指定されています。さいたま市の花でもあるサクラソウのオブジェを「水と花の広場」に設置して、憩いの空間に彩りを添えています。



月の満ち欠けをアートで表現（参考写真）

四季の星座をモチーフに作品製作中（参考写真）

暮らす方々の感性でアートの四季を、発展させていってほしい。

アート作品があるマンションはたくさんあります。でも、私の考える四季のレジデンスというのは、季節の移ろい、年月の流れに応じて、どんどん変化、発展していくというものなんです。アートを眺めるだけでなく、将来居住者のみなさんで、「こういうアートがあったらいいよね」というお話が出たら、どんどんギャラリーを活用していただきたいと思います。引き渡した段階で終わるのではなく、住んでからそのかたちを変えていく。経年優化で、より深みと豊かさを増していく植栽のように、四季が巡り、3年5年と時が流れ、人々の暮らしが育つのと同じように、アートも発展していく。そんな浦和らしい暮らしをみなさんに楽しんでいただけたら、私としてもとてもうれしいです。



水と花の広場にはサクラソウのオブジェを



株式会社 アソシエイテッド・アーツ

等 徹彦

※掲載のイラスト・イメージパース・模型・図面等は計画段階のデザイン提案書より抜粋したもので実際とは異なります。また、今後設計変更等によってデザイン・色・形状等を変更する場合があります。